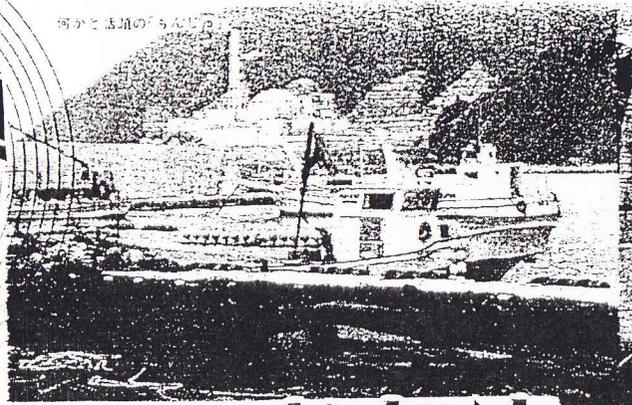
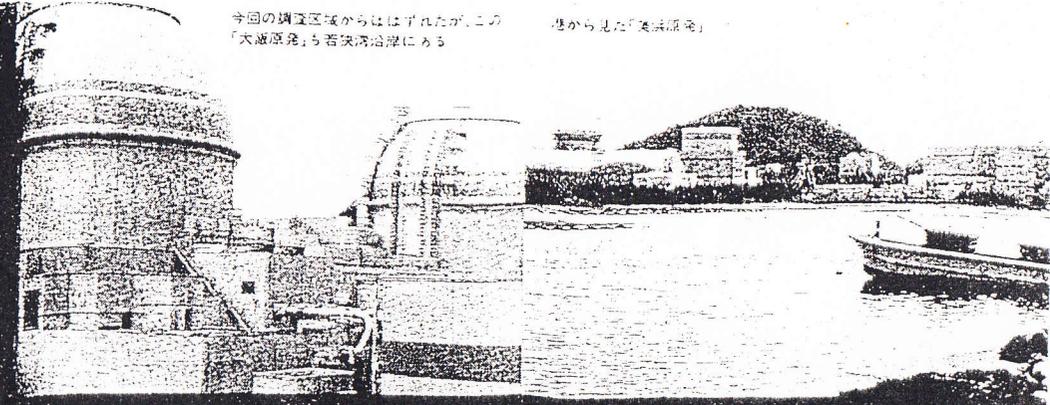


調査スクープ!



何かと話題の「らんじり」



今回の調査区域からは見られなかったが、この「大飯原発」も若狭湾沿岸にある

港から見た「美浜原発」

湾銀座 敦賀 原発

第1回 ガン患者激増の噂を辿って

「若狭湾一帯でガンが増えているみたいなんだよ、すげえ……」。ある日、我々が現地の住民の耳にした噂話は、まさに衝撃的だった。単なる噂話として半信半疑で聞いていた話も、この日本でも「ガン」の患者が増えているという噂が、この地方で起きているのが走り抜けた。大地を駆け抜けようとするような猛暑の中、我々は調査活動を開始したのである。

(ルポライター 明石昇二郎・西村浩一+本誌特別取材班)

ルポレック 現地住民の恐るべき噂

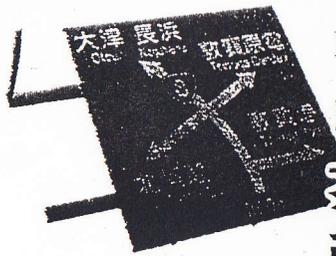
結局、数ヶ月間にも及ぶことになった、我々WPB特別取材班の精神的苦痛に満ちあふれ、一時はまさに「苦行」と化した調査活動は、今年4月上旬、某テレビ局の取材で福井県敦賀市を訪れていた重

者に、隣町・福井県美浜町在住のある市民からこんな情報「が寄せられたことから幕を開けたのであった。

「若狭湾に面した福井県の福井県地方ではここ数年來、甲状腺ガンや白血病に罹る人が非

常に目につくんです。また、そういう噂もあちらこちらで聞かれる。実は、私が今、勤めている職場でも、この半年の間に上司が3人も甲状腺ガンの手術をしているし、このあたりに住んでいる人ならば

「悪性リンパ腫」 多発地帯の恐怖!

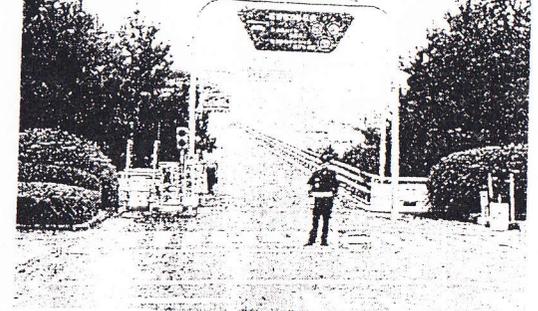


敦賀半島東岸を走る、かつて「敦賀原発」が見える

「高浜原発」は若狭湾の西のほうにある

「悪性リンパ腫」多発地帯の恐怖！

「悪性リンパ腫」は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。この病は、リンパ球という白血球の一種が増殖し、骨髄やリンパ節などに浸潤し、最終的には死に至ることが多い。この病は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。



美浜原発への入口



放射線を計測する「モニターリング・ステーション」

立ちほだかの「悪性リンパ腫」これじゃ取材のしようがない……」
 だが、問題はどうかや……
 の話の、ウラを取ればいいのかもしれない。情報に寄せてくれたMさんの周辺で起こっていることが「事実」だとしても、だからといって「若狭全域で起きている」と言えるわけでもない。

この話が事実かどうかを見極める方法としてまず思いつくのは、大金と大人気の調査員を投入して若狭湾一帯に暮らす人々を全戸調査することである。

「つまり、一帯を白血病患者などの「患者」は……いますか？」と一軒一軒、聞いて回るわけだ。しかし、実際にそれをやってみたらどうで、果たして皆が皆、本当の話を開かせてくれるかどうかは、はっきり言ってなんの保証もない。第一、東京にある筆者自身の家にそんな「調査員」がやって来たとしても、自分だって協力するかどうか自信がない。おまけに、福井県民には次のような、県民性……

「悪性リンパ腫」は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。この病は、リンパ球という白血球の一種が増殖し、骨髄やリンパ節などに浸潤し、最終的には死に至ることが多い。この病は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。

「他県と比べて福井県には、「結婚筋」にかかわる」との理由からか、身内からガンなどの「重病患者」が出たことをとかく隠そうとする傾向がある。これは極端な例ですが、どう見ても結婚に間違った年配の男性患者に「結婚です」と告げたところ、その人は「結婚なんかではあるはずがない。俺は前から気管支が悪いので気管支炎に逢いまい」と言い張り、そのまま退院してしま……

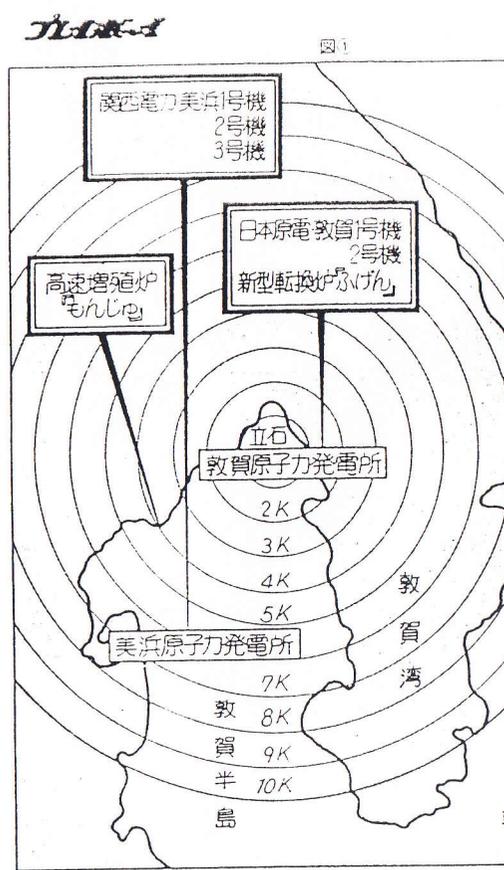
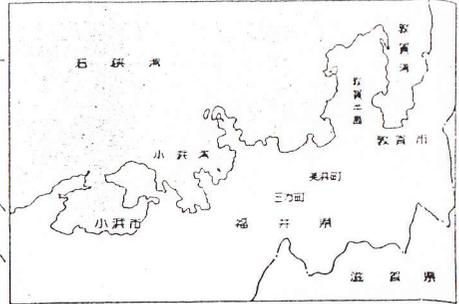
「悪性リンパ腫」は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。この病は、リンパ球という白血球の一種が増殖し、骨髄やリンパ節などに浸潤し、最終的には死に至ることが多い。この病は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。

あるスクープ情報

「悪性リンパ腫」は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。この病は、リンパ球という白血球の一種が増殖し、骨髄やリンパ節などに浸潤し、最終的には死に至ることが多い。この病は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。

我々は猛暑の敦賀へ飛んだ

「悪性リンパ腫」は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。この病は、リンパ球という白血球の一種が増殖し、骨髄やリンパ節などに浸潤し、最終的には死に至ることが多い。この病は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。



「若狭でガン多発？」取材を完全にあきらめたわけではなかった。それは、前出のMさんの話の中にこんな「スクープ情報」が含まれていたからである。

国立大付属病院の医師が「福井県に隣接する石川県全体で1年間に発生する白血病の新患(新しい患者)数と敦賀市で1年間に発生する白血病の新患数が同じくらいなんだ」と話していたというんです。つまり、人口約10万人の石川県における1年間の白血病発生数と、人口約6万8千人……

「悪性リンパ腫」は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。この病は、リンパ球という白血球の一種が増殖し、骨髄やリンパ節などに浸潤し、最終的には死に至ることが多い。この病は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。

「悪性リンパ腫」は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。この病は、リンパ球という白血球の一種が増殖し、骨髄やリンパ節などに浸潤し、最終的には死に至ることが多い。この病は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。

昨年の白血病発生率 全国平均の1.5倍！

「悪性リンパ腫」は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。この病は、リンパ球という白血球の一種が増殖し、骨髄やリンパ節などに浸潤し、最終的には死に至ることが多い。この病は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。

「悪性リンパ腫」は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。この病は、リンパ球という白血球の一種が増殖し、骨髄やリンパ節などに浸潤し、最終的には死に至ることが多い。この病は、かつては「悪性リンパ腫」の一種として知られていたが、近年は「悪性リンパ腫」の一種として知られている。

表① 患者死亡数から見た福井県の白血病発生率は全国平均発生率の何倍か？
（「人口動態統計」「福井県衛生統計年報」からのデータによる）

Table with 6 columns: Year, National population (A), Fukuoka population (B), National deaths (C), Fukuoka deaths (D), and Ratio (E). Rows show data from 1970-1993 in 5-year intervals.

表② 患者死亡数から見た嶺南地方の白血病発生率は全国平均発生率の何倍か？
（「人口動態統計」「福井県衛生統計年報」からのデータによる）

Table with 6 columns: Year, National population (A), Rikugun region population (B), National deaths (C), Rikugun region deaths (D), and Ratio (E). Rows show data from 1970-1993 in 5-year intervals.

(注) 93年については、この年1年間の数値だが、それ以外の欄は1年当たりの平均値を割り出したものである。例えば「過去24年間」の欄は、70年から93年までの人口または死亡者数をすべて足し、24で割った数値であることを意味する。また、ここでは「人口動態統計」「福井県衛生統計年報」に掲載されている「人口総数」の数字を人口として用いた。

加えた。教授はこの話の後にこうも付け

「データはない」と中村教授は言っていた。にもかかわらず、結局は中村教授のこの話こそが我々を住民健康調査に踏み切らせる唯一の「根拠」となった。

筆者はこう考えた。「わからないことだらけだからこの調査をする意味があるんだ！」

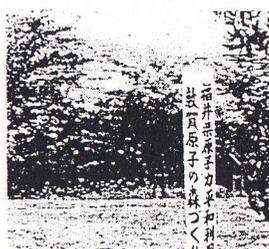
らず、福井県大第一内科の中村教授はこころよく応じてくれた。医療関係者からまともに対応してもらったのは福

井県に来て以来、これが初めてのことだった。その中村教授が言う。「白血病と悪性リンパ腫……」

これは基本的に同じ病気になるんです。白血球の中の顆粒球が腫瘍化したら白血病、リンパ系が腫瘍化したら悪性リン

パ腫になる。つまり、この二つは「兄弟」のような疾患なんですよ」

「ちょっと多いからといって、あそこ（嶺南地方）が特別多いということにはならないと思うんですけどね……」



福井県大第一内科の中村教授の住居

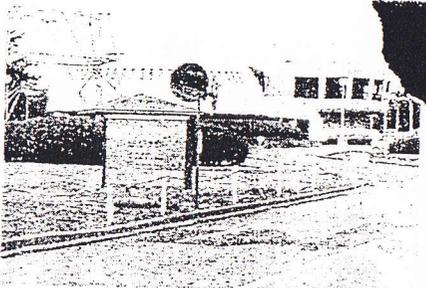
役所に提出されてくる「出生届」や「死亡届」などの情報を基に我が国の人口の移り変わりを調べたもの。この中にあるデータには、死亡したひとりひとり死因別に分類してカウントしていき、その1年分のデータをまとめたというものも含まれている。このデータは都道府県別でも集計されており、こちらのほうは一般に「衛生年報」とか「衛生統計年報」などと呼ばれる。この全国・県別の2つのデータを比較すれば、福

井県における白血病発生率と全国平均の発生率との程度の差があるのかが一目瞭然とわけた。県別のデータはさらに市町村別に分けられているので、全国平均と嶺南地方を比較することもできる。当然のことながら、我々はこれらのデータを比べてみることにした。（次ページの表①、②参照）

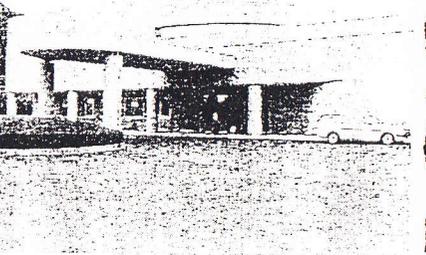
だが、福井県内における取材では医療関係者から軒並み「いゆる、血液のガン」である白血球の症状は、多くの場合、まず「眩暈」から始まる。今回取材した白血病患者の遺族にしても「最初の頃は

取材拒否にあってはいたため、いわば八方塞がりの状態に陥っていた。「噂」が事実かどうか見極めるためには、若狭周辺の「住民健康調査」を行なうこと以外に方法はない。でも、ひとりの医療関係者からも協力を得られないまま、専門知識も要求されるこの住民調査に踏み切るには莫大な手間とコストがかかることある。あまりにも危険が大き過ぎる。あとひとつ、調査に踏み切るための「強力な後押し」になるような何か。がどうしても欲しかった。

「アポイントも取っていない急な取材であったにもかかわらず、」



美浜京子カPRセンター



京賀京子カ館

年間の平均」を割り出して比較してみた場合、福井県における白血病の発生率も嶺南地方における白血病の発生率も全国平均の発生率と大差なかった。しかし、この「全国平均1・51倍」という数値を一体どう考えればいいのか。昨年に限ったことなのか、それとも、今後引き続いて「全国平均を上回り続け、「苦境にカン多発」という異常事態が発生する。前触れなのか。この数値だけを以て「噂」が事実である」と断定することは到底できないが、突っ込んだ調査をしてみる価値はあるのではないかと……。

我々は手掛かりを求め国立福井医科大学付属病院に行くことにする。取材を拒否され続けた我々にとって、福井県内における医療機関ではこれが、最後の頼みだった。さかんに「疲れる、疲れる」と言っていて休みの時は家で寝てばかりいたんです」と話していた。最初の頃は貧血とさほど違いがない症状だったのだ

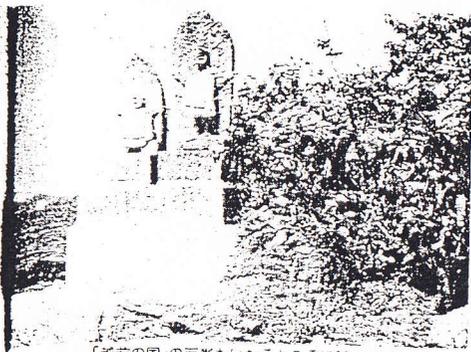
が、当然、町医者のような小さな病院では手の施しようがなく、大病院に送られて精密検査をした結果、初めて白血病であることがわかったという。聞けば、「ひと口に白血病といっても、リンパ性白血病や「骨髄性白血病」といったさまざまな種類があるらしい。

「悪性リンパ腫」多発地域の恐怖！

調査区域は原発の半径10キロ圏内

「患者発生」懸念「多発地帯の恐怖」

ともかくにも住民健康調査を行なうことが決まっています。まず最初に頭を悩ませたのは、一体どこをどうやって調査すればいいのかわからないことだった。人口が約15万もある福南地方の全戸調査をするとは予算的にも期間的にも不可能だったため、調査対象をある程度絞り込む必要があった。



「昔の国」の面影もいたるところに残っている

当初考えたのは、福南地方全域の電話帳から調査対象の家をランダム・サンプリング（無作為抽出）するという方法だった。しかし、この方法以上にもっと意味のある抽出方法があるはずだ……と悩みに悩んだ結果、稼働から30年余りか過ぎた日本原電、敦賀原子力発電所の半径10キロ圏内にある全戸に対し、白血球、悪性リンパ腫及び甲状腺ガンに関する疫学調査を実施することになる。

なお、この調査を実施するにあたっては、調査区域の設定も調査項目の内容などについて自治体調査員や専門家である東洋大学社会学部福下隆雄教授からも助言を請った。調査対象となる地域は敦賀半島内だけでなく、敦賀港を挟んで対岸にある地域までが含まれ、行政区画では敦賀市・美浜町・河野村（注・河野村だけは「福南地方」ではなく「福北地方」に含まれている）の3市町村にまたがる（図①）。住宅地図でひとつひとつ敷き足してみたら、調査

区域内には全部で1111戸あった。

＊
* それでは、この場所を調査することの「意味」をわかりやすく箇条書きにしてみる。

- ①この調査区域（厳密に言うると河野村は福北地方に入る）は福南地方の地域でもあるため、調査結果は「福南地方でガンが多発している」という噂が事実なのか、それとも無責任なデマなのかどうかの判断に役立つ。ここは福南地方全体に広げて考えることはできないにしても、今、福南地方で何が起こっているのかを判断するための「参考資料」には間違いないだろう。
- ②この地域を調査することによって、原発と病気のなにかのつながり、すなわち因果関係が浮かび上がるかも知れない。もし関係があるのなら、原発との距離と病気の関係も明らかになるかも知れない。

「調査区域」は、その意味では、この地域の調査は我々が考えている以上に大変、意義深いものになる可能性もある。

③調査区域内には現在、原発増設の話が持ち上がっているわけだが、「お隣」に暮らす人々の増設問題に対する気持ちも調査を通じて見えてくるかも知れない。

④狭い区域を調査するわけだから、たとえある家で嘘をつかれたり取材拒否をされたとしても、隣近所の家などから「病気の情報は出てくる。つまり、調査に応じてくれる家がある」という情報が取れる。また、調査員が取材拒否した家の分まで情報が取れる。

⑤「全戸調査」は、同じところは何度でも行くことができる。たとえ1回では話してくれない家でも、何回も通っているうちにこちらの誠意が通じて話してくれるようになる……かも知れない。また、留守だった家にしても、引越した家でなければ何回か通ううちに、いずれ「遭遇」

（その家へ「患者発生」といふかどうかは医師から直接病名を告知された親族から病名を確認できたことでもって初めて「患者発生」と判定することにした。噂はあくまで噂であり、「事実」ではないからである。）

ただし、白血球などの病気で、患者本人や、場合によってはその家族にまで「白血球多発症候群」などの病名で告げられることもあるという。

断っておくが、「白血球多発症候群」という病名は医学辞典にすら載っていない。また、なんのガンかよくわからないガンで亡くなった患者に、なぜか「心不全」という死亡診断書が出されたというケースもあると聞く。それだけに、調査は困難を極めることが予想された。しかし、あとは実際に現地を調査するだけだった。

そして、我々はこの実地調査によって「1.5倍」ところではない衝撃的結果にたじろぐことになるのだ。（以下省略）

＊（編集部注）前ページの表中の93年全国人口及び福井県人口、福南地方人口は在日外国人も含まれる総人口です。これらから外国人の人口を引いて再計算した場合、ここに挙げた「倍率」は小数点以下が若干変動します（ほとんどの場合、さらにアップします）。